第 18 講 【近代編】第一次世界大戦とヴェルサイユ体制
PART1 第一次世界大戦

Chapter 1　列強の対立とバルカン半島の情勢

目標
三国協商がどのように形成されていったのかを学ぼう。
バルカン戦争が国際情勢にどのような影響を与えたのかをおさえよう。

1 三国同盟と三国協商

①〔　　　　　　　　〕(1882 年）の成立
　ドイツが中心となり，ドイツ・オーストリア・イタリアの同盟が成立
②ドイツの拡大政策
　新皇帝〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕は帝国主義的な「〔　　　　　　　　〕」を推進（**ビスマルク**は辞任）
　→ロシアとの**再保障条約**の更新を拒否
　　⇒ロシアはフランスに接近し，〔　　　　　　　　〕(1891 年～ 94 年）が成立
　→バグダード（中東）やモロッコ（北アフリカ）に進出を画策
　　⇒イギリスは〔　　　　　　　　〕(1904 年）を結んで対抗
　　　※イギリスは 1902 年に日英同盟を結び，「光栄ある孤立」政策を転換していた。
③イタリアの動向
　「未回収のイタリア」問題でオーストリアと対立
　→フランスに接近し，**仏伊協商**（1902 年）を締結
④〔　　　　　　　　〕(1907 年）の成立
　日露戦争に敗北したロシアは極東での南下を断念
　→イギリス・ロシアの対立が緩和され，〔　　　　　　　　〕(1907 年）が成立
　　⇒イギリス・フランス・ロシアによるドイツ包囲網が完成

2 バルカン半島での列強の対立

①バルカン半島情勢
　バルカン半島は複雑な民族問題を抱え，列強の利害が対立

→「**ヨーロッパの火薬庫**」と呼ばれた

②〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

〔　　　　　　　〕が急先鋒（ロシアが支持）

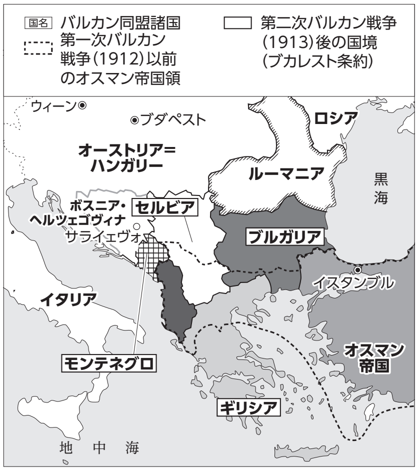
→バルカン半島内のオスマン帝国領獲得を目指す

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

オーストリアが〔　　　　　　　　　　　　　〕

に乗じてスラヴ系住民の多い**ボスニア・ヘルツェゴヴィナ**を併合（ドイツが支持）

→セルビアと対立



バルカン戦争の構図

3　バルカン戦争とその影響

①〔　　　　　　　　　　　〕(1912 年）の成立

セルビア，モンテネグロ，ブルガリア（1908 年，青年トルコ革命に乗じて独立），ギリシアの同盟が結成される

→ロシアが支援

※ブルガリアはオスマン帝国から独立。

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕(1912 年～ 13 年）

オスマン帝国対バルカン同盟の戦争が勃発

→バルカン同盟側が勝利し，オスマン帝国は領土を縮小される

※オスマン帝国はイタリア = トルコ戦争中であった。

→オスマン帝国は**ドイツに接近**

③〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕(1913 年）

第一次バルカン戦争後の領土分割についてバルカン同盟内で対立

→**ブルガリア**対セルビア・ほかのバルカン同盟諸国の戦争が勃発，バルカン同盟側が勝利

→ブルガリアは**ドイツに接近**

まとめ

露仏同盟，英仏協商，英露協商の順に結ばれていき，ドイツを包囲する三国協商が成立した。

第一次バルカン戦争後はオスマン帝国が，第二次バルカン戦争後はブルガリアがドイツに接近した。

Chapter 2　第一次世界大戦の経過と特徴

目標
第一次世界大戦が長期化した理由をおさえよう。
第一次世界大戦の特徴を学ぼう。

1　第一次世界大戦の勃発

①［　　　　　　　　　　　　　　　］
1914 年 6 月，オーストリア帝位後継者夫妻が，ボスニアの州都サライェヴォでセルビア人の青年に射殺される
A　オーストリアがセルビアに宣戦布告，ロシアは総動員令を発出
B　ドイツ，ロシア・フランスに宣戦，**第一次世界大戦**が勃発

②大戦の構図
同盟国側：ドイツ，オーストリア = ハンガリー，オスマン帝国，ブルガリア
協商国側：イギリス，フランス，ロシア，日本，セルビア，イタリア（1915 年～），アメリカ（1917 年～），中華民国（1917 年～）

2　大戦の経過

1914 年　ドイツは短期決戦を画策し，**ベルギー**の中立を侵犯→イギリスが参戦
西部戦線　［　　　　　　　　　　］でフランスがドイツの侵攻を止める
→西部戦線は膠着状態となる
東部戦線　［　　　　　　　　　　　　　　　　　］でドイツの司令官ヒンデンブルク将軍がロシアに勝利
日英同盟により日本が参戦　ドイツ領山東半島や南洋諸島に侵攻

1915 年　イタリア　協商国側で参戦（「未回収のイタリア」に関する**ロンドン密約**）
イープルの戦い　ドイツ軍が**毒ガス**を使用
ルシタニア号事件　イギリスの客船が撃沈され，アメリカ人 100 名以上が犠牲に
→アメリカの対独感情が悪化

1916 年　ユトランド沖の戦い　イギリス海軍が勝利
ヴェルダン要塞の攻防戦　フランスがドイツの侵入を阻止
ソンムの戦い　イギリス軍が**戦車**を使用

1917年　ドイツの〔　　　　　　　　　　　　　　　〕→アメリカが参戦

ロシア十月革命によりロシアが社会主義化

→「**平和に関する布告**」を発出し，即時停戦を呼びかける

1918年　ロシア，ドイツと単独講和（ブレスト＝リトフスク条約）

アメリカ大統領〔　　　　　　　　　〕が「〔　　　　　　　　〕」を提案

ドイツを除く各国が降伏

キール軍港の水兵反乱により**ドイツ革命**が発生

→帝政が倒れてドイツ共和国が成立，休戦協定に調印

3　秘密外交と第一次世界大戦の特徴

①秘密外交

A　**ロンドン秘密条約**→イタリアが協商国側で参戦

B　イギリスは戦争への協力と引き換えに**インドの戦後自治を約束**→反故

C　**石井・ランシング協定**　日米間で中国に関する協定を締結

②イギリスの三枚舌外交

A　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕→アラブ人の独立を約束

B　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕→英・仏・露の３か国で中東を分割

C　〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

→アラブ人が住むパレスチナにユダヤ人国家の建設を認める

③戦争の特徴

A　新兵器の登場→戦争の犠牲が拡大

B　**塹壕戦**による長期化

C　兵士の多くが労働者→社会主義が台頭（ロシア革命など）

D　〔　　　　　　〕体制→女性の後方支援，戦後の社会進出に繋がる

E　**挙国一致体制**

まとめ

ドイツの侵攻をフランスが防いだことで短期決戦の計画がとん挫し，塹壕戦により戦争が長期化した。

新兵器の使用で被害が拡大したほか，各国が総力戦体制をとり，挙国一致体制で戦争に臨んだ。

第 18 講 PART 1 確認問題

1 ビスマルクの辞任後に帝国主義的な「世界政策」を進めたドイツ皇帝はだれか。

① ヴィルヘルム２世 ② アレクサンドル１世
③ フリードリヒ２世 ④ エカチェリーナ２世

2 イギリス・フランス・ロシアの３か国が連携し，ドイツに対抗した枠組みはどれか。

① 三帝同盟 ② 三国協商
③ 神聖同盟 ④ 三国同盟

3 第一次世界大戦勃発の原因の一つとなった，ドイツ系の人々を統合して勢力の拡大を図る思想・運動はどれか。

① 大ドイツ主義 ② 小ドイツ主義
③ パン＝ゲルマン主義 ④ パン＝スラヴ主義

4 オスマン帝国対バルカン同盟の戦争はどれか。

① 第一次バルカン戦争 ② 第二次バルカン戦争
③ イタリア＝トルコ戦争 ④ エジプト＝トルコ戦争

5 第一次世界大戦の発端となったオーストリア帝位後継者夫妻暗殺事件はどれか。

① ファショダ事件　② ドレフュス事件
③ サライェヴォ事件　④ ブーランジェ事件

6 第一次世界大戦の東部戦線においてドイツ軍がロシア軍に勝利した戦いはどれか。

① マルヌの戦い　② タンネンベルクの戦い
③ イープルの戦い　④ ヴェルダン要塞の攻防戦

7 第一次世界大戦終結の直接のきっかけとなった出来事はどれか。

① 第二次モロッコ事件　② ドイツ革命
③ ロシア革命　④ ルシタニア号事件

8 イギリスが主導し，フランス・ロシアとの間で結んだ中東分割の取り決めはどれか。

① ロンドン秘密条約　② バルフォア宣言
③ フセイン・マクマホン協定　④ サイクス・ピコ協定

第18講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：①　ドイツの**ヴィルヘルム２世**は帝国主義政策を推進し，英・仏との対立激化を招いた。

2 解答：②　独・墺・伊の三国同盟に対し，英・仏・露の３か国は**三国協商**を結んでドイツに対抗した。①の三帝同盟はビスマルクが成立させた独・墺・露の同盟。

3 解答：③　全ドイツ人を結集し，勢力拡大を図る**パン＝ゲルマン主義**は，スラヴ人の勢力拡大を図るパン＝スラヴ主義と対立した。①，②の大ドイツ主義・小ドイツ主義はドイツ統一に関する構想。

4 解答：①　オスマン帝国とバルカン同盟の戦争は**第一次バルカン戦争**である。この戦争ののち，ブルガリアがほかのバルカン同盟国と戦ったのが第二次バルカン戦争である。

5 解答：③　オーストリア帝位後継者夫妻はセルビア人の青年により**サライェヴォで暗殺**された。

6 解答：②　ドイツ軍がロシア軍を破ったのは**タンネンベルクの戦い**である。そのほかは西部戦線での戦闘。

7 解答：②　キール軍港の水兵反乱が**ドイツ革命**に発展し，帝政が倒れてドイツは降伏，第一次世界大戦が終結した。

8 解答：④　英・仏・露は**サイクス・ピコ協定**を結んで中東分割を画策した。②のバルフォア宣言はユダヤ人国家の建設を，③のフセイン・マクマホン協定はアラブ王国の建国を約束したもの。